

エルタンゴ 2010

レオナルド・ブラーボ・タンゴ楽団

El Tango 2010 Leonardo Bravo Cuarteto Tango



写真提供：ザ・シンフォニーホール

11月19日～20日にかけて、レオナルド・ブラーボ・タンゴ楽団コンサートが開催された。レオナルド・ブラーボ（指揮・ギター）、喜多直毅（Vn）、田中伸司（Cb）、早川純（バンドネオン）、それぞれ第一線で活躍するアーティストが見事に合わせ込んだ、既に高い完成度を感じさせる初公演。

ガルデルで幕を開け、タンゴ黄金期の名曲の数々、そしてピアソラを、カルテットの他にギター・ソロ、バンドネオン・ソロ、デュオ、トリオ、そして大阪では歌とダンスを加えて、多彩な編成で聴かせた。せつなく激しく男心を歌い上げる喜多のヴァイオリン、クールな風貌を裏切って熱く駆けぬげる早川のバンドネオンに翻弄され、ふと我に返ると田中の重量感のあるバスが響いてくる。そして、すべてを支え包みこむギターの艶やかな音色。隙間のない充実したハーモニーはブ

ラーボの編曲の妙か。切れ味よく躍動する「本物のタンゴ」のリズムに酔い痴れた。ギターを軸とする本格的タンゴカルテット、さらなる活躍を期待したい。

（古寺惇子）

プログラム：アラバル・アマルゴ、エル・ポルテニート、心の底から、スール*、わが両親の家、ダンサリン、ア・ラ・グラン・ムニェカ、淡き光に*、ラ・ジュンバ、フェリシア、ラ・クンパルシータ、プレリュード第2番（ヴィラ＝ロボス／Gソロ）**、澄み切った空（シネーシ／Gソロ）、想いのとどく日、わが愛のミロンガ、ア・ラ・グアルディア・ヌエバ、アムラード、チケ、ハシント・チクラーナ*、シータ、リベルタンゴ（*は大阪のみ、**は名古屋のみ）。

〔11月19日／名古屋・ミューズ音楽館、20日／大阪ザ・シンフォニーホール〕

永田参男

共演：藤井敬吾

Mitsuo Nagata

guest: Keigo Fujii



永田参男は17歳で藤井敬吾と出会いギターを始め、大阪音楽大学、ロンドンのギルドホール音楽院で学んだ後、現在は関西を中心に演奏、指導の両面で活躍している。今回のリサイタルは師である藤井敬吾をゲストに迎え、独奏・重奏を取り混ぜたプログラム。人柄を感じさせる真摯な演奏で、若干の硬さを感じさせるものの、確かなテクニックと歌心が演奏のそこそこに見ることができ、今後のさらなる“伸びしろ”を感じさせる期待の逸材である。（Woodnote）

プログラム：「おいらはキャベツ作りの子」の主題による変奏曲（ジュリアーナ）、前奏曲と踊り Op.42-1（プロトンス）、椿姫の主題による幻想曲（アルカス）、二人の友（ソル）**、羽衣伝説（藤井敬吾）、4つのマズルカ [マリエッタ、夢、アデリータ、マズルカト長調]（タレガ）*、プレリュード BWV926 とフーガ BWV914（バッハ）**、「タンゴの歴史」よりボーデル 1900、カフェ 1930（ピアソラ）**。

* 藤井敬吾ソロ、** 永田、藤井デュオ

〔11月20日／大阪・茨木市立男女共生センター WAM ホール〕